

と の 尼崎運河の環境を良くする研究

鳥類集う干潟づくり

水質浄化施設内にある人工干潟に市民協働活動で潮溜まりやヨシの植栽をしたところ、カワセミなどの鳥類が飛来することを明らかにしました。



カワセミ、ハクセキレイ、ササゴイ、イソヒヨドリ、アオサギ、カモ類が飛来し採餌します

工場地帯に位置する
尼崎運河においても
水辺の環境再生が可能である
ことを示した重要な成果です。

【解説】

- ・生物多様性の再生を目的とした環境再生事業の一つの到達点として、鳥類の出現があります。海辺の生態系の頂点に立つ鳥類が出現することで、餌となる水中の生態系が形成されているということがわかりました。

- ・カワセミは2020年ごろから秋ごろに飛来するようになりました¹⁾。また、アオサギも頻繁に飛来し干潟にいる魚の稚魚を捕食しています。

カワセミ（半径500mのバッファー）

アオサギ（半径1kmのバッファー）

- ・カワセミとアオサギの生息適地をmaxentというツールで図化したところ右図のようになり、武庫川の河川敷や、点在する公園などの緑地があることで、尼崎運河までこれらの鳥類が飛来しうることが示唆されました³⁾。

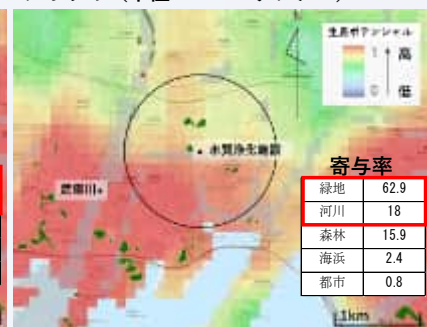
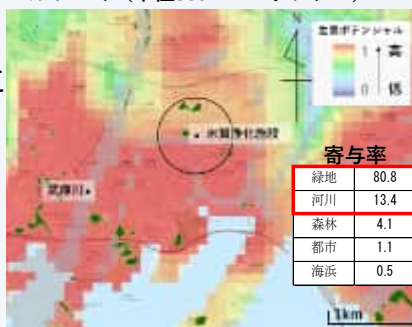


図 生息場のポテンシャルマップ³⁾

- ・飛来する鳥類と共生するための考察を行い右図のようにまとめました。
工都尼崎においても、適切な環境再生事業を行うことで、生物の生息場所を創出することが可能であることが立証され、これからは、再生された生態系とよりよく共に生きるための取り組みが必要です。

- ・本研究は朝日新聞に掲載されました。
2017年12月6日 「よみがえれ尼の運河」

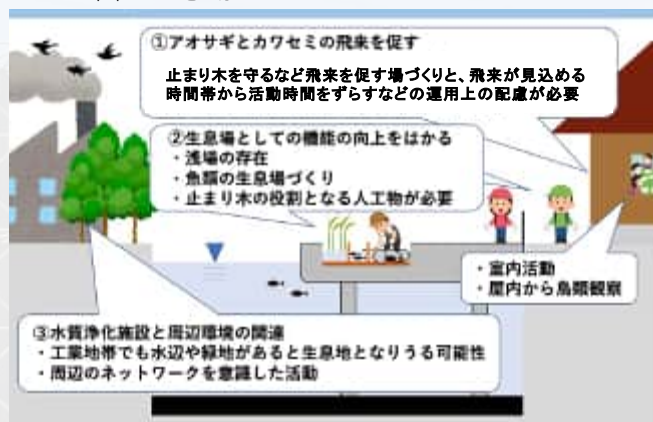


図 飛来する鳥類と共生するために³⁾

1)難波ら(2021): 尼崎運河の人工干潟に飛来するカワセミの生態と保全について, 土木学会四国支部技術研究発表会講演概要集, No.27,

2)村瀬ら(2020): 尼崎運河の人工干潟における生物生息場創出実験について, 令和2年度土木学会四国支部第26回技術研究発表会概要集

3)藍澤(2020): 尼崎運河水質浄化施設での鳥類を考慮した今後の環境活動の在り方について, 徳島大学修士論文